

漢字指導から学力の安定へ

大阪教育サークルはやし 宮本哲

「漢字指導は鉛筆の持ち方か

ら」

小学校六年間で学ぶ新出漢字は一〇〇六字あります。一年生では、八〇字、二年生で、一六〇字、三年生で二〇〇字、四年生で二〇〇字、五年生で一八五字、六年生で一八一字、学びます。

各学年でしっかりと指導してその時は、覚えていても使わなければ、どんどん忘れていきます。

子どもたちは何も指導しなければ、作文や日記、ノートを書くとき、ひらがなばかり書いてきます。理由を聞くと「画数が多くてめんどうくさい。」や「ひらがなの方が早い。」などの答えが返ってきます。そう言った答えを返す子に限って文字を丁寧に書いていない傾向にあります。そして、鉛筆の

持ち方をよくみると、鉛筆を握りしめていたり、鉛筆が前方にたおれていたり正しい鉛筆の持ち方をしていません。一年生で鉛筆の持ち方を学びますが、それが全く身につけていないのです。

私は、高学年を担任することが多いのですが、四月、新しいクラスを受け持ったとき、毎年、

「正しい鉛筆の持ち方をしてごらん。」

と子どもたちに問いかけます。すると自信をもって持ちます。その時

「隣の人と持ち方を比べてごらん。」

と言うと、全然違うことに驚いています。毎日使っているものなのに誰も意識していないのです。高学年では、五分の程度しか正しい持ち方ができていません。

一年生の時は、しっかりと指導していただいたはずですが、学年が上がるにつれてだんだん我流の持ち方になりできていない子

が増えていきます。

やはり身に付けるには、どの学年でも毎年、年度のはじめに一回、できれば学期に一回、さらに月に一回など子どもたちの持ち方をチェックする機会を増やしていく必要があると思います。

漢字を覚えるには、何度も書いて覚えていきます。その過程で、鉛筆の持ち方が悪いとたくさん書けないので覚えるのにも差が生まれてきます。さらにはノートに書く文字の丁寧さや量も変わってきます。まずは、鉛筆の正しい持ち方を！

「手の動きの練習」

次に丁寧にきれいな漢字を書くためには、練習をしなければなりません。間違った練習ではきれいに書けません。

例えば、陸上の短距離選手と長距離選手は、短い時間に大きな力を使うので大きな筋肉をつける練習をします。しかし、長距離選手は大きな筋肉をつけてしまうと最後まで走り続けることができません。それぞれの運動に合った筋肉をつけるトレーニング

をします。

同じように手の筋肉を使って文字を書きます。だから、正しい動かし方で練習しなければ意味がないということです。

鉛筆で書くときは、幼稚園や保育所でクレヨンを使って絵を描いていたように腕全体を動かしてはいけません。腕や手首を動かしてはいけません。動かすのは、指先のみです。このことをしっかりと指導しなければなりません。

このことを意識してする練習をいくつか紹介します。

①塗り絵

色鉛筆を使ってはみ出さないように丁寧に塗っていきます。(この時、腕ごと動かさないようにしっかりと注意する。)

〈塗り方〉

- ・輪郭線の内側をなぞる。
- ・手を細かく動かしながら、丁寧に色を塗る。

- ・力の入れ方を調節し、濃淡も表現する。

②細かい線の練習

- ・フリーハンドで1cm四方の正方形を書く。

できるだけせまい間隔で、横の線を書く。

・同様に縦の線も書く。

・斜めの線も書く。

・塗りつぶす。

このような方法を繰り返すことで、鉛筆を正しく動かす練習をしていきます。

「学年末漢字マラソンテスト」

各学年で今までに習った漢字が定着しているか、テストをして確かめます。

一年生・・・一年生の漢字テスト

二年生・・・一、二年生の漢字テスト

三年生・・・一、二、三年生の漢字テスト

四年生・・・一、二、三、四年生の漢字テスト

五年生・・・一、二、三、四、五年生の漢字テスト

六年生・・・一、二、三、四、五、六年生の漢字テスト

それぞれの学年での新出漢字は、一、二学期で終えるようにします。三学期は、このテストで定着をしているか確かめます。

テストで合格点を決め、合格しなければ合格するまで何度もテストを受け合格するまで頑張ります。(合格点は、それぞれの学級、学校で決めればいいと思います。)

一年生は、漢字プラスひらがな、カタカ

ナもテストすればいいと思います。

四年生は、ローマ字テストも入れてもいいかもしれません。

このテストは、学期末にすることで子ども達の漢字の定着力を自覚させることができるとともに漢字マラソンをゴールすること達成感も味わうことができます。さらには、教師の漢字指導の見直しもできます。

☆子どもたちの漢字の間違え方には、いくつかのパターンがあります。知っておくと漢字指導の際に役立ちます。

- ・線の本数を間違う。
- ・点の有無を間違う。
- ・画の長短を間違う。
- ・似た形の字と間違う。
- ・出る・出ないを間違う。
- ・点と棒の違いを間違う。
- ・止め・はね・はらいを間違う。

漢字は、毎日書きます。ですから、きれいな漢字が書け、多くの漢字を覚えていることで学習が安定し、学級も落ち着いてくるのではないのでしょうか。